

4 調査結果から見られる傾向や状況について

<p>体罰・言葉の暴力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体罰と判断される件数は、4件であった。(※前回調査は9件) ・すべて嚴重注意である。(※前回調査では、文書訓告1件・嚴重注意8件) ○ 行き過ぎた指導等の不適切な行為は、行為を受けたのが60件であった。(※前回調査は70件)なお、行為を見たのは57件であった。 ○ 言葉の暴力は、行為を受けたのが111件(※前回調査は行為を受けたのが145件)。行為を受けた件数は減少している。 ・行為を受けた件数111件の主な内訳は、バカにする58件、人格や能力を否定する(23件)、威嚇や脅し(5件)、集中的に批判する(5件)、ののしる(1件)、その他(19件)である。 ・なお、行為を見たのは122件であった。主な内訳は、バカにする75件、ののしる(7件)、威嚇や脅し(7件)、集中的に批判する(5件)、人格や能力を否定する(4件)、その他(24件)である。
<p>セクシュアルハラスメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒がセクハラを受けたと回答したのが79人(前回調査は64人)と昨年度と比べ増加している。なお、見たのは86件であった。 ・内訳は小学校17人(前回調査21人)、中学校53人(前回調査43人)、高校9人(前回調査0人)、特別支援学校0人(前回調査0人)である。 ・主な理由は、性的な話を言われ不快であった(授業に直接関連する内容は除く)(7件)、身体に触られ不快であった(6件)である。 ○ 教職員がセクハラを受けたと回答したのは34人であり、昨年度の34人と同数である。校種別では中学校教職員が24人と約7割を占める。「誰から受けたか」の割合は、教職員同士からセクハラを受けたという報告が5割、児童生徒からが約4割、その他が約1割である。なお、セクハラを見たと回答した件数は18件である。
<p>各学校での取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校長は年度当初の職員会議において、体罰及びセクハラ防止策として、人権尊重や体罰・セクハラ禁止の経営方針を示している。また、その後、関連事案発生時には、職員会議や打合せの時間に、具体的事例や新聞記事などを配布して周知徹底を図っている。 ○ 教職員の連携を強化し、児童生徒の共通理解と風通しのよい職場環境を作ることで、未然に防ぐ努力を行っている。 ○ 言葉の暴力の定義や叱り方についての指導や研修、管理職による校内巡視や授業参観による各学級の状況把握にも力を入れ、体罰や言葉の暴力を未然に防ぐ取り組みを進めている。 ○ 定期的に不祥事防止のためのセルフチェックを実施し、教職員自身に振り返りの時間を確保するなどの取り組みも行っている。

5 調査を踏まえた今後の対応

<p>各学校での取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的事例を基にした児童生徒指導に関する研修の充実を図る。 ・年度初めに周知した人権尊重や体罰禁止の経営方針を、再度職員会議等において提示し、体罰・セクハラ禁止の周知徹底を図る。 ・最新の情報をもとに、体罰と懲戒、セクハララインについて確認する。 ・定期的な不祥事簿防止のためのセルフチェックを継続して実施するとともに、研修においては法令遵守、サービス管理、情報モラル、アンガーマネジメントやLGBTに関する内容を取り入れる。 ○ 学校組織体制強化を図る。 ・管理職による教室等の巡視、職員への個別指導を行うなど、不祥事防止に向けた体制作りに取り組む。 ・日頃から職員間のコミュニケーションを図り、互いに助け合い支え合う風通しのよい職場づくりに努めるとともに、事案発生時の報告・連絡・相談・報告を円滑に行えるようにする。
<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回のアンケートから第三者による「行為を見た」項目を追加し、「受けた」以外の内容についても回答が得られた。体罰・セクハラは早期発見が重要と考えており第三者の視点を取り入れたことは有効であった。各学校では「受けた」「見た」について特定できるものについては事実確認するとともに、研修において取り上げるなど、再発防止に取り組むなどした。 ○ 体罰・セクハラアンケートの回収方法について ・教員にアンケートを渡す方法では、子どもたちが安心して回答することができないため回収方法を工夫をする。 ○ 管理訪問や各種研修会において、サービス管理やモラルに関する研修の改善を図る。 ・平成27年度末に作成した「体罰及びセクハラ撲滅のリーフレット」、平成28年7月に作成し、令和元年度に改善した「不祥事から身を守るためのセルフチェックシート」を全校に配布するとともに、研修会等において積極的に活用する。 ○ 教育委員会に設置したコンプライアンス班が中心となり、体罰・ハラスメント防止に向け以下の取組を実施する。 ・児童生徒及び職員からの相談窓口の周知 ・ハラスメント防止指針の周知 ・不祥事防止のためチェックシートの改訂 ・コンプライアンス研修の実施及び校内研修資料の充実